



TITLE:

マラヤ稲作シンポジウム

AUTHOR(S):

CITATION:

マラヤ稲作シンポジウム. 東南アジア研究 1964, 2(1): 135-135

ISSUE DATE:

1964-09

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/54911>

RIGHT:

1. 昭和39・40年度現地研究計画の検討について
2. 研究担当教官について
3. 学外者の研究参加について

39年9月12日

(9月1日の常任委員会議題と同じ)

東南アジア研究センター後援会理事会開催日

- | | |
|-----|----------|
| 第1回 | 39年4月24日 |
| 第2回 | 〃 5月25日 |
| 第3回 | 〃 8月4日 |
| 第4回 | 〃 9月8日 |

マラヤ稲作シンポジウム 趣 意

マラヤ稲作に対し、我が国は昭和33年以来21名の専門家を派遣して技術協力を行ってきた。その結果、たとえば育種部門では新品種マリンジャ(MALINJA)の育成に成功し、その他の部門においてもいちおうの成果をあげており、マラヤ稲作改良はわが国の東南アジア技術協力のうち、もっとも組織的に行なわれた例といえることができる。

農林省および海外技術協力事業団はマラヤに対するこの技術協力の成果をとりまとめることを検討していたところ、京都大学東南アジア研究センターにおいて昨年度より東南アジアの現地調査を開始し、その一環として本年度より、マラヤの総合的研究を実施することになった。

よって今回農林省、京都大学東南アジア研究センター、海外技術協力事業団の共催により、マラヤ稲作改良に従事された専門家の参集を願い、その成果についてシンポジウムを催すことは今後の農業技術協力の推進のために有益であると考えられる。

要 領

- | | |
|----------|-------------------------------|
| 1. 主 催 | 農林省、京都大学東南アジア研究センター、海外技術協力事業団 |
| 2. 期 日 | 1964年(昭和39年)9月30日(水)～10月2日(金) |
| 3. 場 所 | 京都比叡山国際観光ホテル |
| 4. 日 程 | (省 略) |
| 5. 参 加 者 | 50人 |

発表者 16人(マラヤ技術協力派遣専門家 15人ほか1名)、熱帯稲作に関する学識経験者 34人(農林省11人、文部省関係その他11人、京大8人、事業団4人)

- | | |
|------------------|---------------------------|
| 6. 事務局 | 11人(農林省4人、研究センター4人、事業団3人) |
| 7. テーマ | 「マラヤ稲作について」 |
| 8. シンポジウムの議長、副議長 | |
| 議長 | 奥田 東(京都大学総長) |
| 副議長 | 馬場 赴(農 技 研) |
| 〃 | 長谷川 浩(京 都 大 学) |

東南アジア研究センター留学生募集要項

東南アジア研究センターは、東南アジアにかんする研究者の養成を目的として東南アジアまたは欧米に留学を希望するものを下記のとおり募集する。

記

- | | |
|------------|---|
| 1. 留 学 地 | 東南アジアまたは欧米 |
| 2. 留 学 期 間 | 約1か年 昭和40年4月以降 |
| 3. 採用予定人員 | 5名以内 |
| 4. 費 用 | 全額支給する |
| 5. 応募資格 | (1) 京都大学大学院学生、またはこれと同等以上の学力のある者
(2) 東南アジア諸語のうち少なくとも一つを習得せんとする者でかつ英語に堪能な者
(3) 将来現地調査に耐え得る体力と意志とを有する者 |
| 6. 応募書類 | 所属学部事務室で願書を受け取り、必要事項を記載のうえ所属学部を通じて提出すること。 |
| 7. 締 切 期 日 | 昭和39年10月15日 |
| 8. 選 考 | センターに設けられた選考委員会において書類選考を行ない、適任者については筆記試験と面接選考および健康診断とを行なう。 |